

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3148362号
(U3148362)

(45) 発行日 平成21年2月12日 (2009.2.12)

(24) 登録日 平成21年1月21日 (2009.1.21)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 G 7/05 (2006.01)

A 6 1 G 7/06

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 3 0 0 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-8302 (U2008-8302)
(22) 出願日 平成20年11月27日 (2008.11.27)(73) 実用新案権者 508351727
有限会社エキサイコウベ
兵庫県神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 (神戸掖済会病院内)
(74) 代理人 100101085
弁理士 横井 健至
(74) 代理人 100134131
弁理士 横井 知理
(72) 考案者 田平 香
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内
(72) 考案者 立助 恵子
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内

最終頁に続く

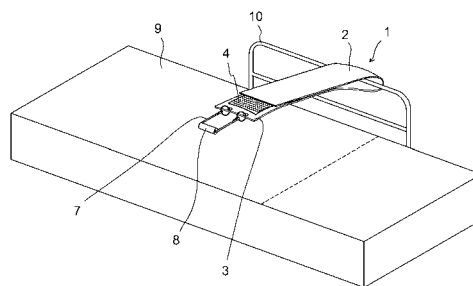
(54) 【考案の名称】 上部内視鏡検査における検査台ベッド用のベルト式握り棒

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 消化器の上部内視鏡検査における検査台であるベッドに横たわった被検者が握ることで安心して検査を受けることができる用具を提供する。

【解決手段】 検査台ベッド9に側臥位に横たわる被検者の背部の検査台ベッド9の側部のベッド柵10に挿通係止し、ベッド柵10から側臥位の被検者の胸部上の上腕を覆うベルト2と、このベルト2の一端にベルト幅の中心から両側に設けた2個のリング孔と、これらの2個のリング孔にそれぞれ挿通した左右2個の係止リングと、これら2個の係止リングに端部をそれぞれ係止し、かつ、筒状の握り棒8に挿通した弾性紐7と、ベルト2の長手方向の両端部の各内面3にそれぞれ配設した雌雄の平面ファスナー4とからなる消化器の上部内視鏡検査における検査台ベッド9用のベルト式握り棒1。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

検査台に側臥位に横たわる被検者の背部の検査台ベッド側部のベッド柵に挿通係止しかつ該ベッド柵から側臥位の被検者の胸部上の上腕を覆うベルトと、該ベルトの一端にベルト幅の中心から両側に等間隔に離間して設けた 2 個のリング孔と、該 2 個のリング孔にそれぞれ挿通の 2 個の係止リングと、該 2 個の係止リングに端部をそれぞれ係止しかつ筒状の握り棒に挿通した弾性紐と、上記ベルトの長手方向の両端部の各内面に配設の平面ファスナーとからなることを特徴とする消化器の上部内視鏡検査における検査台ベッド用のベルト式握り棒。

【請求項 2】

ベルト式握り棒のベルトおよび筒状の握り棒はそれらの布地の表面をビニールコーティングしたことを特徴とする請求項 1 に記載の消化器の上部内視鏡検査における検査台ベッド用のベルト式握り棒。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この考案は消化器疾患の患者の診断及び治療のために用いる胃カメラによる上部内視鏡検査は細径スコープと異なり、まだ多くの患者にとって不安や苦痛で苦しく耐え難い検査である。この検査時に検査台であるベッドに横たわる患者が安心してリラックスして、かつ、安全に手で握れるベルトで保持した握り棒に関する。

【背景技術】**【0002】**

近年、消化器内視鏡検査の分野では、細径スコープの開発が進み、また、経鼻内視鏡が話題に取り上げられるようになってきたが、現段階での医療の現場において使用されている胃カメラによる上部内視鏡検査は、上記したように、まだ多くの患者にとっては苦しく耐え難い検査の一つであり、患者の不安や苦痛は計り知れない。そこで、看護師が患者の背を撫でたり、手などを握るなどのタッチングにより患者の不安を軽減している。

【0003】

しかしながら、看護師が検査の間中ずっと患者の傍について背を撫でたり、手を握っていることは仕事に差し支えることがあり困難である。従って、患者の中には、スコープを口中から挿入後も緊張がとけず、肩を怒らせたり、腕組みを強くするなど全身の力が抜けず、検査中に足をばたつかせたり、手を口元に反射的に持って行ってスコープを引き抜こうとしたり、検査医の身体に手で触れたり、白衣を掴むなどする患者もいる。

【0004】

従来、患者によっては、検査前に「検査台上で手はどこにおけばいいでしょうか」という質問を発したり、検査中に「何かを握っていたい」という言葉を発したり、「以前の検査の時に把持棒がベッドについていた」という言葉が発していたことに注目した。

【0005】

このような、検査中の患者の行動は、「意識下手術時の把持行動を前提とした上肢台の作成と有用性」として発表されている（例えば、非特許文献 1 参照。）。この研究論文によると、意識下手術患者はストレスを感じると反応の一つとして把持行動がみられ、把持意欲も高い。上肢台を作成して使用することによって、手術中の把持意欲を満たし、不安やストレスの軽減につながる、という結果を得ている。

【0006】

【非特許文献 1】伊藤 美喜、外「成人看護 2000」、第 31 回、日本看護学会論文集

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0007】**

本考案が解決しようとする課題は、考案者は、検査中の手に関する意識調査をもとに、

10

20

30

40

50

不安を持つ患者の把持欲求を満たすことができ、かつ、安全に検査を受けられる補助具を種々試んだ結果、消化器の上部内視鏡検査における検査台であるベッドに横たわった患者が安心して握ることができる用具を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決するための本考案の手段について説明する。請求項1の考案では、検査台ベッド9に側臥位に横たわる被検者11の背部の検査台ベッド9の側部のベッド柵10に挿通係止し、かつ、このベッド柵10から側臥位の被検者11の胴部上の上腕12を覆うベルト2と、このベルト2の一端にベルト幅の中心から両側に等間隔に離間して設けた2個のリング孔5と、これらの2個のリング孔5にそれぞれ挿通した左右2個の係止リング6と、これら2個の係止リング6に端部をそれぞれ係止し、かつ、筒状の握り棒8に挿通した弾性紐7と、ベルト2の長手方向の両端部の各内面3にそれぞれ配設した雌雄の平面ファスナー4とからなる消化器の上部内視鏡検査における検査台ベッド9用のベルト式握り棒1である。

10

【0009】

請求項2の手段では、

ベルト式握り棒1のベルト2および筒状の握り棒8はそれらの布地からなる表面をビニールコーティングしたことを特徴とする請求項1の手段の消化器の上部内視鏡検査における検査台ベッド9用のベルト式握り棒1である。

20

【考案の効果】

【0010】

本考案の効果について説明すると、胃カメラによる上部内視鏡検査を受ける被検査者が検査台ベッドに横臥して検査を受けるときに感じる不安と苦痛の気持ちを、本考案のベルト式握り棒を把持することで、和らげることができ、看護師が常に被検査者に付き添う必要がなくなり、さらにベルトおよび筒状の握り棒の表面をビニールコーティングすることで唾液などの汚れを容易に除去可能とし、また、検査中に被検査者の体位の安定も図れ、検査がスムーズに実施できるなど、この考案は被検査者のみならず検査者側にも極めて有効であった。

【考案を実施するための最良の形態】

【0011】

本考案を実施するための最良の形態について以下に図面を参照して説明する。本考案のベルト式握り棒1は、図1に示すように、基本的には、ベルト2と、このベルト2の長手方向の一端に係止した弾性紐7と、この弾性紐7を挿通した筒状の握り棒8とからなっている。

30

【0012】

さらにベルト式握り棒1について詳細に説明すると、図1および図2に示すように、このベルト2の幅は20cm、長さは105cmおよび厚さ6mmである。ベルト2の素材はキルト芯を入れた布地からなり、被検査者11の気持ちを和ませるような、例えば、水玉模様のような色合いと柄模様とする。さらに、胃カメラ検査時の唾液等による汚染で布地が汚れた際に、容易に拭って清潔に保てるように、布地の表面を透明なビニールでコーティングしている。このベルト2は長さ方向を二つに折り返して裏側を合わせて使用するので、ベルト2の裏側面である内面3のそれぞれの端部よりの部分に平面ファスナー4の組となる雄部4aと雌部4bを設けている。この場合、ベルト2を折り返した時に端部の合わせ目の位置を調節可能とするために、一方の端部よりに設けた平面ファスナー4の幅および長さを、例えば雌部4bの幅を14cmに拡げさらに長さを11cmからなるものとして固定面を補強し、雄部4aの幅も11cmに拡大しさらに長さを30cmの長尺として係止位置の調節を容易なものとする。

40

【0013】

さらにベルト2の一端に係止した弾性紐7は多芯の糸ゴムを有し、その周囲を伸縮性の筒状編み紐で覆った例えば自転車荷台用のゴム紐と同様の構造とする。さらにベルト2の

50

一端の２カ所に金属環の鳩目を設けてリング孔５とし、このリング孔５に径３ｃｍの金属製の係止リング６を挿通して回転自在とする。この回転自在とした係止リング６に弾性紐７の一端を係止する。この場合、弾性紐７の長さはおよそ５０ｃｍとし、この弾性紐７を長さおよそ１３ｃｍの筒状の握り棒８に挿通する。したがって、この筒状の握り棒８はベルト２の一端から係止リング６を介しておよそ１８ｃｍの位置に設けられている。この筒状の握り棒８は大人が最も握り易いと感じる３．５ｃｍ径の太さとし、その芯部を硬質の例えば木製の円筒とし、その円筒面上に発泡ウレタンの薄い緩衝材で覆って表面を布地でくるんで握る手にやさしさを与えるものとし、さらに表面を清潔に保ち、唾液等による汚れを容易に拭えるように透明なビニールでコーティングしている。

【００１４】

一方、上記のように形成されたベルト２は、図３に見られるように、検査成形体成形体台ベッド９に左側臥位に横たわる被検者１１の背部のベッド柵１０の横枠に内面３を内側にして挿通され係止される。この係止して折返したベルト２は左側臥位の被検者１１の胴部上の右の上腕１２を覆い、この覆ったベルト２の一端が伸びる２本の環状の弾性紐７の間に右腕を入れて、筒状の握り棒８を右手１３で安定して握れるように、ベルト２の折返しの長さを被検者１１の体形に合わせて調節して、ベルト２の内面３の平面ファスナー４を係止して固定するものとされている。

【００１５】

ここで、本考案のベルト式握り棒１の使用例を説明する。図４に見られるように、患者である被検査者１１の上部内視鏡検査として、胃カメラによる検査を準備する。このために、検査台ベッド９の側部のベッド柵１０にベルト２の内面３を内側にして挿通し、ベルト２をベッド柵１０に係止する。次いでベルト２の長さのほぼ半分でベルト２を内側に折り返す。検査台ベッド９に左側を下にして横たわった被検査者１１の左側臥位の体形および腕の長さを想定して折り返したベルト２のそれぞれの内面３に設けた平面ファスナー４の係止部の位置を予め定めて準備を完了する。これらの準備が完了すると、消化器の検査を受ける被検者１１は検査台ベッド９に左側臥位をとって横たわる。次いで、被検者１１は左側臥位の状態で、右上腕をベルト２で覆い、ベルト２の先端に係止の弾性紐７を挿通している筒状の握り棒８を右手１３で握らせ、その腕の突っ張り具合が最適と感じられる状態で折り返したベルト２の長さとして内面３の平面ファスナー４を係止する。この場合、被検者１１の左腕は屈曲して左手１４を右上腕の下に挟み込むようにする。一方、被検査者１１の下肢は右膝を左膝より前に少し出して曲げて上部内視鏡検査の基本体位とし、腰部を後方に引いて屈曲させて基底面積の広い左側臥位を保持するものとする。

【００１６】

本考案のベルト式握り棒１を検査台ベッド９に設け、胃カメラによる上部内視鏡検査を５０人の被検査者１１に実施し、アンケートした。５０人の被検査者１１の内８０％近い人が胃カメラの経験回数が２回以上であった。本考案のベルト式握り棒１を次回も使用して検査を受けたいと希望した人数は４３名で８６％であった。検査に付き添った看護師からは、サイズはフィット感があり、安定していたと報告を得ている。

【図面の簡単な説明】

【００１７】

【図１】本考案のベルト式握り棒の表面を示す模式的な平面図である。

【図２】本考案のベルト式握り棒の平面ファスナーを有する裏面を示す模式的な平面図である。

【図３】検査台ベッドの一部とベルト式握り棒に係止したベッド柵を示す斜視図である。

【図４】検査台ベッド上で横臥してベルト式握り棒を把持する被検査者の側面図である。

【符号の説明】

【００１８】

- １ ベルト式握り棒
- ２ ベルト
- ３ 内面

10

20

30

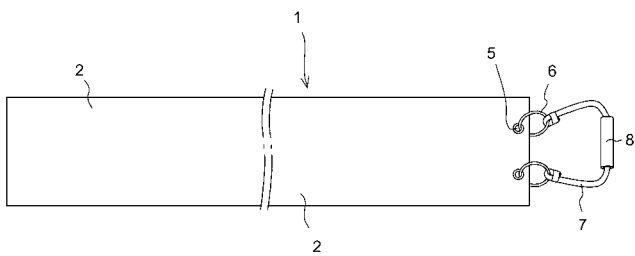
40

50

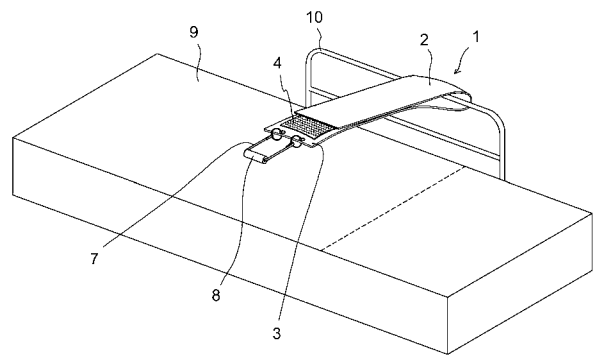
- 4 平面ファスナー
- 4 a 雄部
- 4 b 雌部
- 5 リング孔
- 6 係止リング
- 7 弾性紐
- 8 筒状の握り棒
- 9 検査台ベッド
- 10 ベッド柵
- 11 被検者
- 12 上腕
- 13 右手
- 14 左手

10

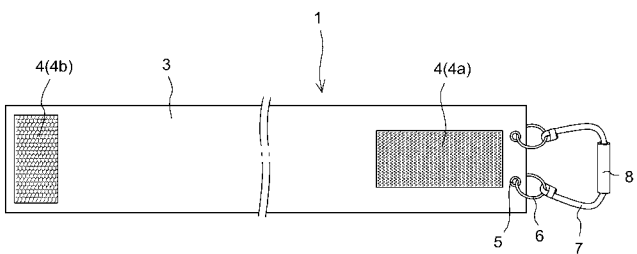
【図 1】



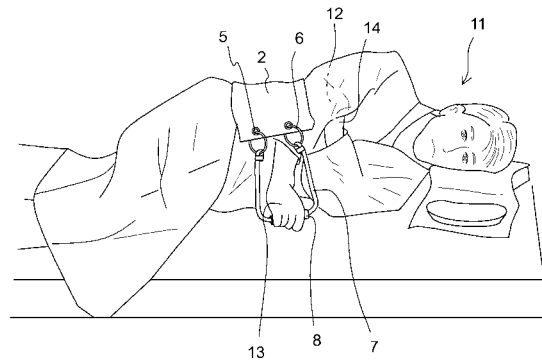
【図 3】



【図 2】



【図 4】



フロントページの続き

- (72)考案者 斉藤 久仁子
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内
- (72)考案者 山本 道代
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内
- (72)考案者 安東 恵理子
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内
- (72)考案者 高部 道代
神戸市垂水区学が丘1丁目2番1号 神戸掖済会病院内

专利名称(译)	用于上内窥镜检查的试验台的带式握杆		
公开(公告)号	JP3148362U	公开(公告)日	2009-02-12
申请号	JP2008008302U	申请日	2008-11-27
[标]申请(专利权)人(译)	励磁科比		
申请(专利权)人(译)	有限公司励磁神户		
当前申请(专利权)人(译)	有限公司励磁神户		
[标]发明人	田平香 立助惠子 齐藤久仁子 山本道代 安東惠理子 高部道代		
发明人	田平 香 立助 惠子 齐藤 久仁子 山本 道代 安東 惠理子 高部 道代		
IPC分类号	A61G7/05 A61B1/00		
FI分类号	A61G7/06 A61B1/00.300.Z		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

(修改) 要解决的问题: 提供一种工具, 其可以容易地检查被夹在作为消化器官的上部内窥镜检查中的检查台的床上的受检者。一种密封插入并与检查台躺在病床上的卧位的床身导轨10侧接合9名受试者检查床床9后面, 所述主体的在床轨道10的主题的横向位置一个带2覆盖从一端到带2的带束宽度的两侧上的中心设置的两个环形孔的上臂, 右和左分别在这两个环孔插入两个锁定环, 末端分别与这两个锁定环啮合, 并且弹性绳7穿过管状夹持杆8插入并且在消化器官的上内窥镜检查中检查, 该消化器官包括分别设置在带2的两个纵向端部处的内表面3上的凸形和凹形平面紧固件4。床用带式握把1用于床床9。

